

2025.1 ブログ：『大学入学共通テスト「情報1」と文理融合』の詳細

(→ <http://www.1968start.com/M/blog/index3.html#2501>)

大学入学共通テスト「情報1」と文理融合

中所武司

■このエッセイのきっかけ

大学入学共通テストに新たに導入された「情報1」に関する下記の記事で、C. P. スノーが指摘した「文系と理系の分断」が引用されていた。過去のブログとの関連でコメントする。

- ・朝日 (2025. 1. 18) 「(天声人語) 文系・理系の先に」

<https://digital.asahi.com/articles/DA3S16128868.html>

【過去ブログ／エッセイ】

- ・2019. 12 「二つの文化：自然科学と人文科学」

(ブログ) <https://www.1968start.com/M/blog/index.html#1912d>

(エッセイ) <https://www.1968start.com/M/blog/1912TwoCultures.pdf>

■記事の要約とコメント (→★)

- ・英国の著述家C・P・スノーは、「文系と理系の分断」を指摘した先駆者と言われる。1959年に行った講演で、西欧社会が「文学的知識人」と「科学者」の二極に分かれつつあり、互いに理解しようとしないと嘆いた。

→★冒頭で引用した過去ブログで、C. P. Snow の” The Two Cultures ” に言及している。

- ・スノー自身は大学で物理化学を学び、小説も書いた文理融合の人だった。分断が進んだ理由に「教育の極端な専門化」を挙げ、唯一の解決策は教育の再考であると述べた。
- ・日本でも、「文系・理系の壁」が言われて久しい。特に、大学受験に合わせたコース分けで、多くは高2からクラスが分かれるが、自分がどの分野に向くか明確な16歳は少ないだろう。

→★過去ブログでは、Aldous Huxley の” Literature and Science ” (文学と自然) にも言及。この著書(1963年)で、《二つの文化》の論争は、17世紀の科学革命に始まり、19世紀の産業革命によって、その現実性を強められ、第2次産業革命によってさらにその緊急の解決を迫られるに至った歴史課題と述べている。

→★さらに60年を経て、生成AIのあるべき活用形態の検討に避けられない課題と思われる。社会科学や人文科学の視点からの提案が待たれる。

- ・今年の大学入学共通テストで、文系・理系にかかわらず役立つという「情報1」が加わった。新学習指導要領に対応した科目で、データ分析やプログラミング、情報モラルなどを扱う。試作問題に挑戦してみたが、時代の流れを感じた

→★後日の発表で、「情報1」の平均点は73.1点と高く、語学の中国語と韓国語を除くと、最も高い結果だった。

- ・地球温暖化や感染症対策、エネルギー問題。グローバル化とIT化が進む中、学問の垣根を越えた研究分野は増えている。文理融合が求められる今日、未来の自分像が浮かぶ柔軟な進路選びであってほしい

→★後日発表の問題を見ると、やはり how to make の問題が多かった。文理融合の観点からは、「どのように作るか」よりも「何を作るか」、「なぜ作るか」が重要と思う。

(参考)

拙著「ソフトウェア工学（第3版）」（朝倉書店、2014）

<https://www.1968start.com/M/lecture/SE3index.html>

<まえがき：抜粋>

本書の本当の主題は Why > What > How である。

- ・Why 問題は？ （なぜつくるの？）
- ・What 解決案は？ （何をつくるの？）
- ・How 実現方法は？ （どのようにつくるの？）
- ・・・新しいパラダイムに移行して革命をもたらすのは、伝統的ルールに縛られない若い人たちである。

- ・今年の志願者は、約49万5千人。

以上